

1 題材名 作品に込められた作者の思いを読み取り、表現豊かに歌おう

2 題材について

(1) 生徒の実態について

本授業の生徒は男子20名、女子22名で構成されている。3クラス合同の選択クラスであるが、他者に対して寛容な生徒が多く、授業では臆せず歌ったり、発言したりできる環境にある。中学生の頃から歌うことに興味を持っている生徒が多く、多くの生徒が意欲的に声を出して歌っている。基礎的な発声法もおおむね理解しており、意識しながら歌っている。また、ほとんどの生徒が音程を正確にとることができる。基礎的な音楽用語等の知識の習得は生徒によって差があるが、こちらの質問には積極的に答えてくれる。

明るく、大きな声で、曲の持つ雰囲気を掴んで歌う姿には好感が持てるが、曲の情景や背景、作曲者の思いなど、楽曲を理解しながら歌う力を伸ばしていきたいと考えている。雰囲気だけに任せて歌うのではなく、楽曲を分析しながら、歌詞の意味を深く考え、表現する力を高めていきたい。

(2) 題材設定の意図

本題材は、学習指導要領のA表現(1)歌唱のア「曲想を歌詞内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージを持って歌うこと」とエ「音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを甘受して歌うこと」に即して進めていく。本授業の生徒は「正しい音程で歌う」「大きな声で歌う」「感情をこめて歌う」ということを意識しながら授業に取り組んでいる。教員の指示を正確に守ろうとする意識が強く、自分なりの考えや表現を持つことが難しい。与えられた表現だけでなく、自分たちの力で歌詞に込められた作者の気持ちや指示された楽語の意味を考え、表現の工夫とその表現方法を考える力を高めたいと考え、この題材を設定した。

3 題材の目標

- (1) 曲想と歌詞の内容や楽曲の背景とのかかわりに関心を持ち、日本歌曲の学習に主体的に取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、音楽表現の工夫を考え、どのように歌うかについて表現意図を持つ。(音楽表現の創意工夫)
- (3) 創意工夫を生かした表現をするために必要な日本歌曲の歌唱の技能を身に付け、創造的に表している。(音楽表現の技能)

4 教材について

「この道」 作詞者 北原 白秋 作曲者 山田 耕筈

この曲は、有節歌曲形式で歌詞が4番までつけられた短い作品である。1927年に発表された作品

で、歌詞は北原白秋が晩年に旅した北海道の情景と幼い頃に過ごした熊本の道の情景や思い出を重ねて書いたものだと言われている。歌詞の内容からは作者が感動した風景の美しさと母親を大切に思う心情を読み取り、楽譜からは歌詞と旋律、拍子の変化、音楽記号のそれぞれの関係と読み取り、表現してほしいと考えこの楽曲を選んだ。

5 学習指導要領の指導事項と具体的な学習活動

指導事項	<p>1、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージを持って歌うこと</p> <p>2、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うこと</p>
具体的な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本歌曲の特徴を捉え、イタリア歌曲と比較しながら発声や発音を工夫する。 ・歌詞の内容を知り、風景の写真を見て、曲のイメージをつかむ。 ・同じ言葉が繰り返される部分について考え、表現を工夫する。 ・グループ活動を通して、音楽記号の意味を作品から読み取り、表現の工夫を考える。 ・自分なりの表現を見つけ、技能を身に付けて実際に表現する。

6 評価規準（題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準）

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	<p>① 曲想と歌詞の内容や楽曲の背景とのかかわりに関心を持ち、日本歌曲の学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>① 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取っている。</p> <p>② 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図を持っている。</p>	<p>① 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な日本歌曲の技能を身につけ、創造的に表している。</p>
1時	①		①
2時		①	
3時	①	①	
4時		②	
5時		②	①

7 指導と評価の計画（5時間扱い）

時	<p>○学習内容 ・主な学習活動</p> <p>~~~~部は、本時において身に付けさせたい資質・能力を育成するために、特に見方・考え方を働かせる場面</p>	<p>○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法</p> <p>☞本時において身に付けさせたい資質・能力を育成するための核となる具体的な手立て</p>
---	--	---

<p>1 本 時</p>	<p>○日本歌曲を歌うために必要な技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の音程、鼻濁音を確認し、詩の朗読をする。 ・子音と母音について、発声や発音の違いについて理解し、表現を工夫する。 ・「は・な・が」の発音を意識する。 ・日本歌曲における言葉の重要性和1学期に学習したベルカント唱法の関係性について考えさせる。 ・考えたことをもとに、子音の聞こえ方にも母音の響きにも気をつけながら歌う。 	<p>○正しい音程、鼻濁音による発音を確認させ、詩の朗読により言葉のまとまりを意識させる。</p> <p>☆ (関① 活動観察)</p> <p>☞子音と母音の関係性に留意させ、なぜ言葉を明確に伝える必要があるのかを考えさせる。</p> <p>☞日本歌曲を美しく歌うために、ベルカント唱法の母音の響きを利用して歌わせる。</p> <p>☆ (技① 活動観察)</p>
<p>2</p>	<p>○音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノを使って、旋律の音程を確認する。 ・旋律の動きの特徴を確認する。 ・日本歌曲の位置付けを理解する。 ・日本歌曲を日本語の羅列にならないよう、芸術的に歌う意味を考えながら歌う。 ・曲中に出てくる強弱記号や音楽用語の意味を理解する。 	<p>○メロディーの流れだけでなく、伴奏で和声感を意識させ、正しい音程で歌わせる。</p> <p>○音と音の隔たりを意識させる。</p> <p>☞童謡、わらべ歌、日本歌曲等の違いについて理解させ、日本歌曲をどのように歌ったら良いかを考えさせる。</p> <p>○記号が持つ本来の意味を理解させる。</p> <p>☆ (創① 活動観察)</p> <p>☞曲中に出てくる音楽用語(メゾスタッカートとゆるく)の意味について、どう解釈したら良いか、疑問を投げかけ、次回以降の課題にさせる。</p>
<p>3</p>	<p>○楽曲の背景と歌詞に込められた思いを読み取り、表現を工夫する。(実習生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この道」が作曲された背景、歌詞の意味を理解し、歌詞の情景を想像して歌う。 ・作曲者の「この道」の解釈について説明する。 ・1番から4番の共通する歌詞「ああ そうだよ」の歌い方をどのように変化させるか、歌詞の背景から考え、意見を発表する。 ・考えたことを踏まえ、表現を工夫して歌う。 	<p>○曲中に登場する植物や風景の写真を用い、歌詞の内容を理解させる。</p> <p>○生徒が頭の中に情景描写することができるよう、適切な言葉かけをする。</p> <p>○情景描写だけでなく、作曲者の心情を描写している歌詞に注目させ、表現を工夫させる。</p> <p>○「ああ そうだよ」の歌い方の変化を、歌詞の内容から想像して考えるように呼びかける。</p> <p>☆ (関① 活動観察 ワークシート)</p> <p>☞短い曲の中にも作者が込めたたくさんの思いや意図があることに気付かせ、何通りにも解釈できること、また、自分の考えを持つことの大切さを意識させる。</p> <p>☆ (創① 活動観察 ワークシート)</p>

4	<p>○音楽記号がこの曲の上ではどのような意味を持つかを考え、表現を工夫する。(実習生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の抑揚を意識して詩の朗読をする。 ・曲中の以下の箇所について、表現の仕方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 1、冒頭のP 2、ゆるく 3、メゾスタッカート ・歌い手の違う3種類のCDを鑑賞し、1つの記号に様々な表現の余地があることを知覚する。 <p>[グループ活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>前時までに習得した知識を基に、作品から課題を読み取り、表現の工夫について話し合う。</u> ・グループごとに表現方法を発表する。 	<p>○単調になることを防ぐため、日本語の抑揚に合わせて手を上下させる。</p> <p>○歌い手によって表現が違うことに気付かせる。</p> <p>○話合いの方向性や報告のポイントを理解させ、一人一回は発言させる。</p> <p>○他のグループの発表と自分の考えの共通点や違う点を意識させる。</p> <p>○他のグループの発表の良い点に目を向けさせる。</p> <p>☆ (創② 活動観察、ワークシート)</p>
5	<p>○歌詞と旋律の関係を読み取り、自分自身の表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の発表を振り返り、他者の良い点も取り入れながら、自分なりの表現を考え、楽譜に書きこむ。 ・良い表現が効果的に使えるように、練習する。 <p>・大きな跳躍の表現を工夫する。</p> <p>・拍子の変化を理解し、意味を理解するとともに、変化による表現を工夫する。</p> <p>・<u>前時までに考えた表現と本日学習したことをより効果的に表出できるように、発声や体の使い方、音のとらえ方等を工夫する。</u></p>	<p>○楽譜に表現を書き込むことで、常に意識できるようにする。</p> <p>○前時までに生徒たちが考えた表現のうち、良さそうなものを取り出し、効果的に使えるよう技能として習得させる。</p> <p>☞グループで行った前時までの活動を活かし、最終的には自分の考えの下、自分の演奏をすることを意識させる。</p> <p>☆ (創② 活動観察、ワークシート)</p> <p>大きな跳躍を音程としても理解させ、跳躍が何を表すのか、歌詞と結びつけながら考えさせる。</p> <p>☆ (技① 活動観察)</p>

8 本時の学習指導 (1/5)

(1) 本時の目標

- ① 歌詞の内容や旋律の動き、音楽記号などを理解し、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。
- ② 考えた音楽表現をするために、声の出し方や強弱を工夫して、歌えるようにする。

(2) 展開

<p>○学習内容 ・主な学習活動</p> <p>_____部は、本時において身に付けさせたい資質・能力を育成するために、特に見方・考え方を働かせる場面</p>	<p>○指導上の留意点 ☆評価規準</p> <p>☞本時において身に付けさせたい資質・能力を育成するための核となる具体的な手立て</p>
<p>○日本歌曲を歌うために必要な技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴く。 ・ピアノを使って、旋律の音程を確認する。 ・鼻濁音の確認をする。 ・歌詞を朗読する。(1番のみ) <p>・1学期に学習した校歌を用いて子音の大切さを、イタリア歌曲を用いて母音の響かせ方を再確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語とイタリア語の母音を比較する。 ・母音と子音の発声の仕組み、発音の仕組みについて理解する。 ・「は・な・が」の発音を意識する。 <p>・<u>日本歌曲における言葉の重要性と1学期に学習したベルカント唱法の関係性について考えさせる。</u></p> <p>・<u>考えたことをもとに、子音の聞こえ方にも母音の響きにも気をつけながら歌う。</u></p>	<p>○正しい姿勢や発声であるかを確認し、正しい音程で歌わせる。</p> <p>○鼻濁音について説明し、鼻に手を当て振動を確認させながら、実際に発音させる。</p> <p>○朗読をし、言葉のまとまりを意識させる。</p> <p>☆ (関① 活動観察)</p> <p>○校歌では子音が聞こえないと言葉の意味が伝わらなかったこと、イタリア歌曲ではベルカント唱法を学んだことを思い出させる。</p> <p>○母音のうち、特に i と u の口の中の開き方の違いを理解させ、発音させる。また、日本歌曲では母音をどう発音したら（響かせたら）良いかを考えさせる。</p> <p>○発声では、肺から口腔までの息の流れ、声門の動き等を理解させ、発音では母音の場合、呼気が妨げられることなく発音されること、子音は呼気が口腔内のどこかにあたり、遮られることで発音されることを理解させる。</p> <p>○母音が共通する「は・な・が」の発音を用い、子音により呼気が唇にあたり、息の流れが一瞬止まってしまうことを確認し、どのように歌ったら良いかを考えさせる。</p> <p>☞子音と母音の関係性に留意させ、なぜ言葉を明確に伝える必要があるのかを考えさせる。</p> <p>☞日本歌曲を美しく歌うために、ベルカント唱法の母音の響きを利用して歌わせる。</p> <p>☆ (技① 活動観察)</p>